

大明大明小学校 校長室から

2019年4月26日

No. 6

文責 校長 飯久保一男

こどもの日って？

「5月3日は何の日？」「5月4日は？」と小学生に尋ねても、全員正解とはなりません。ところが、「5月5日は？」と尋ねると、かなりの確率で「こどもの日！」と返ってきます。こどもの日は、それだけ有名な祝日です。では、こどもの日とは、どんな祝日でしょうか？1948年（昭和23年）7月20日に公布・施行された「国民の祝日に関する法律」に、

こどもの日（5月5日） こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、**母に感謝する**

と定められています。「こども」とは、男の子・女の子の両方を指す言葉とのことです。注目していただきたいのは、「母に感謝する」日でもあるということです。子どもの誕生日にもお祝いをしたりプレゼントを渡したりしますが、私は、子どもの誕生日も、お母さんが産んでくれたことに感謝する日であってほしいと思っています。きっと、お母さん方は、子どもが誕生日を迎えると、その子が生まれたときのことを思い出すのではないかと思います。こどもの日も子どもの誕生日も、お母さんのための記念日でもあるのです。

☆母に感謝する「こどもの日」・翌週の「母の日」にちなんで、子どもの詩と新川和江さんの詩を紹介します。

おかあさん

まつお たく

おかあさんは、

よそのひとにあつたら

いつもぼくのこと

「これ、うちのだからもの。」

という。

ぼく、はずかしくなっちゃうよ。

おかあさんは、

ぼくがねるときいつも

「こもりうた、うたってあげようか。」

という。

「いいよ。」

というも

「まあまあ、えんりょしないで。」

という、うたいながらねてしまう。

ははのひに、

かあねえしよんをあげて

「ひゃくさいまでいきろよ。」

といったら、ないた。

おかあさんは、ぼくの

だからものだ。

おかあさん

新川 和江

おかあさんは 女優じゃない

花束をもらったことも いちどもない

だからわたしがあげた

たった一りんのカーネーションにも

よろこんで すぐになみだぐんでしまう

おかあさんは 学者じゃない

大ぜいの人の前で こうえんなどしたこともない

でもお母さんの話しことばは

焼きたてのパンにバターがしみこむように

あたたかく わたしの心にしみこんでくる

そんなおかあさんが わたしは好き

おかあさんは気にするけれど

笑うと 目じりに寄る あの小じわが好き

どんな香水もかなわない

うちのおかあさんのおいが好き



時計

有吉 秀顕

いつも動いている。
少しは休め。
時計みたいなお母さん。
電池をぬくぞ、お母さん。



お母さん

小峯 かおり

お母さんは、お父さんが出張で
いないあいだは、こわい人です。
まるで、ひげがはえたように、
いばっています。

でも、土曜日にお父さんが、帰る日には
やさしい女の人にもどります。
お父さんは、そんなことしらないから、

「お母さん一本つけてお母さん」
とつけています。

そしたら、お母さんは小さい声で
「ハイ」
と、かわいらしく、いいました。

お母さんありがとう

野地 きり

「お母さん、明日の朝まで、
ゼッケンつけてね。」
お母さんはしらんぷり。

夜ねる前に茶の間をのぞいてみた。
明るい電気の下に

お母さんのせ中だけが見えた。
つかれているようなせ中だった。

「お母さん、ゼッケンぬった。」
次の朝聞いてみた。

新しいゼッケンに
お母さんのおいが
しみこんでいた。

お母さん

吉越 大祐

夜中に、お手洗いで目が覚めた。
時計の針は、十時を指している。
居間のすきまから
電気の明かりがこぼれている。
お父さんとお母さんを驚かそうと
ソツとソツと歩いた。

「私、白髪があるわ。」
「そんな年か。」

という会話が、ぼくの耳に入った。

ぼくは、クルッと回って、お手洗いにいき、
急いでふとんにもぐった。

天井の豆電球を見つめていたら
涙が耳の中に伝わった。

お母さん、
ぼくの大切なお母さん。

いつまでも苦くいてほしい。

